

# ベトナム語の“bị”の各用法

## レー ビック ジエップ

キーワード：被害、本動詞、助動詞、直接受動文、間接受動文

### 1. はじめに

ベトナム語の“bị”（漢越語の「被」に由来<sup>1</sup>）に関する研究は受動文をめぐることが多い（村上 1997、谷守 1999、Diệp Quang Ban 2005、Nguyễn Hoàng Tuấn 2006 など）。(1) に示すように、“bị”受動文は基本的に「NP1（受動主体）+ bị + NP2（動作主）+ V」という構文を取り、「被害」「迷惑」の意味を表すと指摘されている<sup>2</sup>。“bị”は日本語の「ラレル」に対応し、ベトナム語の受動文のマーカーの一つとして認められている。

- (1) Dũng bị cô giáo mắng.  
ズン PASS<sup>3</sup> 先生 叱る （ズンは先生に叱られた<sup>4</sup>。）

文法化された“bị”の品詞に関して、助動詞、冠詞、機能語、状態動詞などの呼び方があり、意見が分かれている。また、以下のように“bị”は様々な構文で用いられ、名詞句・形容詞句・動詞句・節と結合できる。(2)～(7)において、(6)は(1)のような構文を持ち、ベトナム語の典型的な受動文であると認められている。

- (2) Anh ta bị ảo ảnh kinh hoàng.  
彼 幻影 恐ろしい （彼は恐ろしい幻影を見た。）

→構文：NP1（主語）+ bị + NP2（対象）

- (3) Thu bị bận bịu suốt cả ngày.  
トゥー 忙しい ずっと 一日中 （トゥーは一日中ずっと忙しい。）

→構文：NP（主語）+ bị + AP

- (4) Thu bị ngã từ cầu thang.  
トゥー 転ぶ から 階段 （トゥーは階段から転んだ。）

→構文：NP（主語）+ bị + ViP

<sup>1</sup> ベトナムは紀元前から 19 世紀末にかけて中国の影響を強く受け、言語面でも漢字由来の語彙が多い。現在ではベトナム語の文字はアルファベット表記であるが、単語の 6～7 割は漢字が基となった“từ Hán Việt”（トゥー・ハン・ヴィエットー「漢越語」）とされ、漢字で表記可能である。例えば、日本語の「ありがとうございます」に対応するベトナム語“Cảm ơn”（カム・オン）は、「感恩」という漢越語で表記できる。また、富田（1988）では、ベトナム語の特徴について以下のように記述している。

ヴェトナム語は、既に述べたような歴史の必然的帰結として、その圧倒的多数の借用語を中国語（漢語）に負っている。（中略）また、品詞でいえば、実詞といわれる名詞や動詞、形容詞などに限らず、いわゆる虚詞といわれる文法語彙にまで及んでいる点で、日本語における漢語からの借用語とは趣を異にしている。

<sup>2</sup> 「NP1（受動主体）+ được + NP2（動作主）+ V」の構文を持ち、もう一つのベトナム語の典型的な受動文がある。“được”というマーカーは「恩恵」「受益」の意味を表すとされている。

（例）Dũng được cô giáo khen.  
ズン PASS 先生 褒める （ズンは先生に褒められた。）

<sup>3</sup> 略号については、論文末の一覧を参照。

<sup>4</sup> 本稿では、ベトナム語の例文の日本語訳は直訳であり、不自然な場合がある。

(5) Thu bị tẩy chay kịch liệt.  
トゥー 虐める 激しい (トゥーは激しく虐められた。)  
→構文：NP (主語) + bị + VtP

(6) Thu bị bạn tẩy chay.  
トゥー 友達 虐める (トゥーは友達に虐められた。)  
→構文：NP1 (主語) + bị + 節 (NP2 + Vt)

また、以下のような文も観察でき、場面によって“bị”の意味が解釈される。

英語の受動文と日本語の直接受動文と同様に、対応する能動文 (6') が存在する。友達に虐められることは受動主体に対しては被害・不利のため、“bị”でマークされ、被害を表す“bị”受動文で表現される。(5)は(6)の省略形式であり、能動文の動作主が不明又は文脈で分かる場合は述べなくても良い。

(7) Hắn ta bị rồi.  
彼奴 PRF (あいつはもうやられた。)

(6') Bạn tẩy chay Thu.  
友達 虐める トゥー (友達はトゥーを虐めた。)

では、他の例文の“bị”はどのような役割を果たすのか。加えて(6)のような構文であるが、他動詞の位置に形容詞・自動詞節が登場する際はどのように扱うか、問題になる。

(8) Chị Thu bị con ốm yếu.  
CL トゥー 子供 病弱 (トゥーの子供は病弱だ。)  
→構文：NP1 (主語) + bị + 節 (NP2 + A)

(9) Chị Thu bị bạn tới trễ.  
CL トゥー 友達 来る 遅れる (トゥーは友達に遅れられた。)  
→構文：NP1 (主語) + bị + 節 (NP2 + Vi)

本稿では、“bị”はどのような構文を取るか、文中で“bị”の役割は何かを考察し、“bị”の構文及び各用法を明らかにする。

## 2. ベトナム語の特徴及びベトナム語“bị”の意味

### 2.1. ベトナム語の特徴

ベトナム語の“bị”を考察する前に、先ずベトナム語の基本的な規則を概観する。

日本語と違い、ベトナム語は中国語やタイ語などと共に、「孤立語」の類型に属している。印欧諸語のような男性、女性、中性の区別や、単数と複数など、または動詞の時制を表す語尾変化等の現象はない。

文の構成について、語順は「主語＋動詞＋目的語」、SVOである。

(10) Tôi thua.  
私 負ける (私は負けた。)

(11) Tôi ăn cơm.  
私 食べる ご飯 (私はご飯を食べる。)

以上の例文では時制を表す形式が現れないが、場面により判断される。テンスを表す“đã” (過去)、“sẽ” (未来)、又は相を表す“rồi” (完了相)、“đang” (進行相) などあるが、省略が多い。

(12) Sáng nay, tôi (đã) ăn cơm.  
今朝 私 (PAST) 食べる ご飯 (今朝私はご飯を食べた。)

(13) A: Đang làm gì đấy?  
 PROG する 何 PRT? (何をしているの。)

B: Chơi.  
 遊ぶ (遊んでいる。)

(12) では時間を表す“sáng nay” (今朝) が文頭に現れるため、“đã” (もう) の過去の副詞が不要になる。(13) も B の発話は A の質問に対する答えであり、主語 (tôi (私)) も時制副詞 (đang (一ている)) も省略されている。

次に、修飾語は被修飾語の後ろにつける。数量詞と形容詞を修飾する程度副詞は、それぞれ名詞と形容詞の前に立つ。

(14) Đứa trẻ này đã ăn ba bát cơm rất nhanh.  
 CL 子 この PRF 食べる 3 CL 飯 とても 速い

日本語の直訳文：この子はとても速くご飯を3杯食べた。

助動詞は動詞の前に置かれ (15)、態を表す助動詞は主体の直後に位置する (16、17)。

(15) Tôi muốn đi Mỹ.  
 私 AUX 行く アメリカ (私はアメリカに行きたい。)

(16) Tôi được mẹ khen.  
 私 PASS 母 褒める (私は母に褒められた。)

(17) Bố bắt tôi đi học thêm.  
 父 CAUS 私 行く 塾 (父は私を塾に行かせた。)

## 2.2. ベトナム語の名詞、形容詞、動詞の区別

孤立語のベトナム語は名詞、形容詞、動詞の判別に関して、場合によって品詞が変わると指摘されている。例えば、以下の“sạch sẽ” (きれい) という形容詞の用法をしてみる。

(i) Phòng sạch sẽ.  
 部屋 きれい (部屋がきれいだ。) →形容詞の用法

(ii) Sạch sẽ là điều tốt.  
 きれい COP こと いい (きれいなのはいいことだ。)  
 →名詞化、文の主語になる

(iii) Giữ phòng sạch sẽ là cần thiết.  
 保つ 部屋 きれい COP 必要 (部屋をきれいに保つのは必要だ。)  
 →副詞化、動詞を修飾する

(iv) Hãy sạch sẽ.  
 ください きれい (きれいにしてください。) →動詞化、命令形と共起する

要するに、判別は簡単な作業ではなく、文中の他の語彙とどのように結合するか分析しなければならない。確かに以上では、“sạch sẽ” (きれい) の品詞を考察する際、先行要素と後続要素を考慮し、文の全体を見たが、まだ問題点が残っている。(ii) では、“sạch sẽ”

は主語の役割を果たすため、形容詞が名詞化されると認められるが、形容詞の代わりに、動詞も主語になり得る。するとこの場合も動詞を名詞の用法を持つと見なす必要がある。<sup>5</sup>

(ii) Chờ đợi làm tôi sốt ruột.

待つ CAUS 私 イライラする (待つのにイライラしていた。)

(ii) Chết là hết.

死ぬ COP 終わり (死ぬことは終わりだ。)

さらに (iii) では、“sạch sẽ”の他に、多様な形容詞が“hãy” (ください) と共起できる。

(iii) Hãy chăm chỉ.

ください まじめ (まじめにいてください。)

(iii) Hãy dũng cảm.

ください 勇ましい (勇ましくいてください。)

以上の品詞分析を加えて、ベトナム語の品詞の区別は、以下のように提案する。

①名詞は“~ này/ đó/ kia” (この/その/あの~) という指示詞<sup>6</sup>と共起できる。また、所有を表す「ノ格」とも許容される。

具体名詞 (山、机、犬など) は特に品詞区別の問題が出ないが、例えば、“bệnh” (病気) の品詞を考察してみる。“bệnh này” (病気+この) や“căn bệnh này” (CL+病気+この) の言い方ができる。更に、“bệnh của cô ấy” (病気+の+彼女) も言えるため、“bệnh”は名詞として見なす。一方、上記の“sạch sẽ” (きれい) は “sạch sẽ này” (きれい+この)、“sạch sẽ của cô ấy” (きれい+の+彼女) と言えなく、また“sạch sẽ”に依じる類別詞も存在しないため、名詞ではないと言える。

②形容詞は“trở nên ~” (~なる) と共起できる。

上記の“bệnh” (病気) と“sạch sẽ” (きれい) を考察した結果、“trở nên bệnh” (なる+病気) は許容されないため、形容詞の用法を持たないと考えられる。それに対して、“trở nên sạch sẽ” (なる+きれい) は表現できるので、形容詞であると分かる。

一方、“hạnh phúc” (幸せ) のような語彙は名詞も形容詞の用法を持っている。その要因は“hạnh phúc này” (幸せ+この)、“hạnh phúc của tôi” (幸せ+の+私)、“trở nên hạnh phúc” (なる+幸せ) いずれも言い表せるからである。状態や感情を表す語彙の品詞判定は非常に難しいが、ここでは“trở nên ~” (~なる) と共起できる語彙は形容詞の用法を持つと主張する。

例: trở nên dễ (なる+易しい)	→“dễ”は形容詞である
trở nên lạc quan (なる+楽観的)	→“lạc quan”は形容詞である
trở nên sợ (なる+怖い)	→“sợ”は形容詞である
trở nên căng thẳng (なる+緊張)	→“căng thẳng”は形容詞である
*trở nên đau (なる+痛い)	→“đau”は形容詞ではない
*trở nên mệt (なる+疲れる)	→“mệt”は形容詞ではない

<sup>5</sup> 形容詞と動詞は主語として名詞化できるが、目的語にはなりにくいので、この問題についてはまだ検討の余地がある。

<sup>6</sup> ベトナム語では指示詞とされるが、日本語では連体詞という。

\*trở nên ngại (なる+恥ずかしい) →“ngại”は形容詞ではない

\*trở nên hôn mê (なる+昏睡) →“hôn mê”は形容詞ではない

③動詞と形容詞を名詞化すると、類別詞又は“sự/việc+V/A” (こと+V/A) で言い表す。

例えば、“ngã” (転ぶ) の動詞を名詞化すると、速くて強い動作を表す“cú”の類別詞を扱い、“cú ngã” (CL+転ぶ) の名詞が成り立つ。“đi” (行く) の場合は、運送の便を表す類別詞“chuyển”を使用し、“chuyển đi” (CL+行く) の名詞が成立する。形容詞の場合は、例えば、“đỏ” (赤い) の形容詞を名詞化すると、“màu” (色) という類別詞を使い、“màu đỏ” (CL+赤い) の名詞が出来上がる。以上の“sạch sẽ” (きれい) の前に、“sự” (こと) を加えると、“sự sạch sẽ” (きれいにいること) の名詞になる。

ここで、大事なことを述べなければならない。それは場合によって類別詞と“sự/việc” (こと) は現れないが、文脈で読み取れることである。以下の (18a) と (18b) では、同じく“báo cáo”が出現するが、(18a) の“báo cáo”は動詞であり、直接目的語の“tình hình” (状況) と間接目的語の“giám đốc” (社長) を取る。(18c) のように、“báo cáo”の前に名詞化するための何枚数かあると表す類別詞“bản” (部) を付けると、非文となる。一方、(18b) では“báo cáo”は名詞であり、“gửi” (送付する) の直接目的語となる。類別詞の“bản” (部) と共起でき、文脈から読み取れるためである (18d)。

(18) a. Tôi báo cáo tình hình cho giám đốc.  
私 報告 状況 に 社長 (私は社長に状況を報告した。)

b. Tôi gửi báo cáo cho giám đốc.  
私 送る 報告 に 社長 (私は社長に報告書を送付した。)

c. \*Tôi bản báo cáo tình hình cho giám đốc.  
私 CL 報告 状況 に 社長

d. Tôi gửi bản báo cáo cho giám đốc.  
私 送る CL 報告 に 社長 (私は社長に報告書を送付した。)

以上の規則に基づいて、“bị”の後続語彙の品詞を考察し、明らかにする。類別詞が出現する (19b) でも、出現しない (19a) でも文が成立する。その上、動詞と形容詞は主語の直後に出現するが、(19c) は非文となるため、“tai nạn” (事故) は名詞であると分かる。

(19) a. Cô ấy bị tai nạn.  
彼女 事故 (彼女は事故に遭った。)

b. Cô ấy bị vụ tai nạn.  
彼女 CL 事故 (彼女は1件の事故に遭った。)

c. \*Cô ấy tai nạn.  
彼女 事故 (彼女は事故だ。)

(20b) の“bị việc điếc” (bị+CL+耳が不自由) は不自然なであり、類別詞と共起できないので、この文の“điếc”は名詞ではない。また、“điếc”は“trở nên điếc” (なる+耳が不自由) と言えるため、形容詞の用法を持つと考えられる。(21b) は (20b) と同様な解釈であり、“ngã”は名詞ではないと結論できる。“trở nên ngã” (なる+転ぶ) の表現も許容されないため、“ngã”は動詞であると認められる。

要するに、“bị”の後続語彙は名詞、形容詞、動詞であり、いずれも“bị”と共起できる。

- (20) a. Cô ấy bị điếc.  
 彼女 耳が不自由 (彼女は耳が不自由だ。)  
 b. \*Cô ấy bị việc điếc .  
 彼女 CL 耳が不自由 (彼女は耳が不自由なことを被っている。)
- (21) a. Cô ấy bị ngã.  
 彼女 転ぶ (彼女は転んだ。)  
 b. \*Cô ấy bị cú ngã.  
 彼女 CL 転ぶ (彼女は転びを被っている。)

### 2.3. 漢越語“bị”の意味

Hoàng Phê(2003)『ベトナム語辞典』p.61 掲載の“bị”の品詞と意味は以下のものである。

**danh từ** đồ đựng bằng lát hay vải có quai xách

*bị thóc. bị thức ăn*

bên bị (nói tắt)

**động từ** chịu sự tác động của việc không hay, không có lợi với mình

*Bị tai nạn. Bị mất cắp. Nhà bị dột. Bị người ta chê cười.*

**名詞** 草或いは布で作られたバッグ

“bị”+米 (米のバッグ)、“bị”+食べ物 (食べ物のバッグ)

被告 (俗語)

**動詞** 良くない出来事・不利に自分が影響される

“bị”+事故 (事故に遭う)、“bị”+盗難 (盗難に遭った)

家+“bị”+雨漏り (家が雨漏りする)、“bị”+人+笑う (人に笑われる)

名詞としての用法を除き、“bị”はどの語彙と結合しても、本動詞として分類されている。ただし、以上の例では、“bị”の構文もそれぞれ異なり、“bị”の出現も必須の場合とそうではない場合があるため、検討しなければならないと思われる。以下のように、(22a)では、“Alzheimer”が名詞であり、“bị”がないと、文が不適格になる(22b)。一方、自動詞の“dột”が現れる(23)の例文では、“bị”がなくても文が成立する。つまり、共起する品詞によって、“bị”の機能が変わると言える。

- (22) a. Cô ấy bị Alzheimer.  
 彼女 アルツハイマー病 (彼女はアルツハイマー病をかかった。)

- b. \*Cô ấy Alzheimer.  
 彼女 アルツハイマー病

- (23) a. Nhà bị dột.  
 家 雨漏りする (家が雨漏りした。)

- b. Nhà dột.  
 家 雨漏りする (家が雨漏りした。)

以下ではベトナム語“bị”の各用法と特徴を考察し、記述する。

### 3. “bị”の動詞の用法

「NP1 (主語) + bị + NP2 (対象)」の構文を持ち、“bị”の直後に名詞句が置かれる。この用法の特徴は“bị”を省略できず、SVO 構造において動詞の役割を果たすことである。

### 3.1. NP1 が有情物の場合

- (24) Nam bị điểm 3.  
ナム 3点 (ナムは(テストで)3点を受けた。)
- (25) Nó bị đạn.  
あいつ 弾 (あいつは撃たれた。)
- (26) Anh ta bị tai nạn.  
彼 事故 (彼は事故に遭った。)
- (27) Chị ấy bị hung tin.  
彼女 悪いニュース (彼女は悪いニュースをうけた。)
- (28) Con chó bị bệnh.  
CL 犬 病気 (犬は病気にかかった。)

以上の例文ではNP2の特徴としては好ましくないことを表す名詞である。それを受け取る  
とNP1にとっては不利であり不快になるため、“bị”を用い表現する。主語が被害を被るとい  
う意味を表すことが分かる。これに対して、好ましいもの・ことが現れる場合非文となる。

- (24) \*Nam bị điểm tối đa.  
ナム 満点 (ナムは満点を受けた。)
- (25) \*Nó bị phần thưởng.  
あいつ 賞品 (あいつは賞品をもらった。)
- (26) \*Anh ta bị món quà.  
彼 プレゼント (彼はプレゼントをもらった。)
- (27) \*Chị ấy bị tin vui.  
彼女 いいニュース (彼女はいいニュースをうけた。)
- (28) \*Con chó bị khúc xương.  
CL 犬 CL 骨 (犬は骨をうけた。)

### 3.2. NP1 が非情物の場合

- (29) Cửa bị bụi.  
ドア 埃 (ドアに埃がついている。)
- (30) Dòng sông bị rác thải.  
CL 川 ゴミ (川はゴミがいっぱいだ。)
- (31) Nước bị cặn.  
水 垢 (水に垢がある。)

(29) ~ (31) ではドア、川、水それぞれの状態がどうか描写されている。非情物の  
ドア、川、水は不利などを認識することができないが、“bị”本動詞のマイナスの意味をうけ、  
主語が良くない状態を被っていることを表すと考えられる。この要因で、以下の通り、プラス  
の意味を持つ名詞が現れると、文が不自然になる。つまり、非情物の主語であっても、良くない  
意味を持つものとはしか共起できない。

- (29) \*Cửa bị bông hoa.  
ドア CL 花 (ドアに花がある。)
- (30) \*Dòng sông bị phù sa.  
CL 川 砂州 (川に砂州がある。)
- (31) \*Nước bị hương thơm.  
水 香り (水に香りがある。)

#### 4. “bị”の助動詞の用法

Dinh Văn Đức (1986) は、ベトナム語では、“cần (要る), muốn (欲しがる), có thể (できる), bị (被る), được (得る)”などの語は本動詞としての独立性が低く、文法化され、助動詞になりつつあると述べている。例えば、以下の例文では、願望の意味を表す“định”という動詞の後に、“đi” (行く) という動詞が現れ、いずれが本動詞か判別する必要がある。もし“định”が本動詞であれば、“đi Mỹ” (アメリカへ行く) は名詞句の役割を果たし、2.2 節で述べたように、類別詞をつけ、“chuyến đi Mỹ” (CL+行く+アメリカ) の表現ができる。しかし、(32b) の“Tôi định chuyến đi Mỹ” (私+định+CL+行く+アメリカ) は非文となるため、“đi Mỹ”は名詞句ではない。そもそも“định”より“đi”のほうが独立性が高いため (非文の“Tôi định”と正文の“Tôi đi”との比較に基づく)、このような文では、“định”は助動詞の用法を取り、“đi”は本動詞として解釈される。

(32) a. Tôi định đi Mỹ.

私 行く アメリカ (私はアメリカに行くつもりだ。)

b. \*Tôi định chuyến đi Mỹ.

私 CL 行く アメリカ (私はアメリカに行くことを予定している。)

“định”と同様の解釈であり、ここでは“bị”は助動詞の用法を有する。(23) を再掲する。

(23) a. Nhà bị dột.

家 雨漏りする (家が雨漏りした。)

b. Nhà dột.

家 雨漏りする (家が雨漏りした。)

(23a) では、“bị”は助動詞の用法を取り、“dột”は本動詞として機能している。特徴としては“bị”がなくても、文が成り立つことである (23b)。しかし、そうすると、主語に対して「被る」というニュアンスがなくなる。以下の表で示されるように、形容詞・自動詞・他動詞と結びつき、「NP<sub>(主語)</sub> + bị + A/V<sub>i</sub>/V<sub>t</sub>」の構文を持つ。

【表1】

	形容詞	自動詞	他動詞
有情物の主語	điếc (耳が遠い), béo phì (太っている), khó chịu (気持ちが悪い), khổ tâm (心苦しい), u sầu (悲しい), ngu ngốc (ばか) など	dị ứng (アレルギーになる), lạc đường (道に迷う), ngã (転ぶ), đau (痛い), lưu ban (留年する), mất ngủ (眠れない) など	quên (忘れる), mất (無くす), viết sai (書き間違える), hát sai (歌い間違える), uống nhầm (飲み間違える) など
非有情物の主語	bẩn (汚れる), cong (反る), cũ (古い), tối (暗い) など	đắm (沈む), vỡ (割れる), rụng (落ちる), héo (枯れる), sạt lở (崩れる), ngập (洪水になる) など	

表1に示すように、“thông minh” (頭がいい) や“vui” (喜ぶ) など、プラスの意味を持つ形容動詞・動詞は“bị”と共起しない。また、他動詞と結合する際は、“ăn cơm” (ご飯を食べる)、“mở cửa” (ドアを開ける) のような被害の意味が出ない動詞が許容されず、“~

nhầm/sai”（～間違える）という複合動詞の形式と結び、望ましくない状態を被る意味を表す。非情物の主語は動作を引き起こすことができないため、他動詞と共に起できない。

一部の例文を取り上げ、考察する。

- |   |                                |
|---|--------------------------------|
| (33) Dung bị khổ tâm.<br>ズン 心苦しい            | (形容詞、有情物の主語)<br>(ズンは心苦しい。)     |
| (34) Dung bị lạc đường.<br>ズン 道に迷う          | (自動詞、有情物の主語)<br>(ズンは道に迷った。)    |
| (35) Dung bị quên ví ở nhà.<br>ズン 忘れる 財布に 家 | (他動詞、有情物の主語)<br>(ズンは家に財布を忘れた。) |
| (36) Áo bị bẩn.<br>シャツ 汚い                   | (形容詞、非情物の主語)<br>(シャツは汚い。)      |
| (37) Thuyền bị đắm.<br>船 沈む                 | (自動詞、非情物の主語)<br>(船が沈んだ。)       |

名詞句と結びつく本動詞の“bị”の使用と対比し、助動詞の“bị”は形容詞と自動詞・他動詞と結合することが分かった。一方、意味の面では、共通点が見られる。本動詞の“bị”と同様に、主語が有情物の場合（(33) (34) (35)）は、その主語に立つものが好ましくないことを被るという意味が出る。“bị”がない文では、主語がある出来事を被っている意味が含まないのに対して、“bị”が出現すると、例えば、(33) では、「ズン」という人物は「心苦しい」という状態を被っていることを表す。(34) (35) でも同じ解釈であり、「ズン」が受けた望ましくないことは「道に迷っている」、「家に財布を忘れた」のである。また、非情物主語の場合は形容詞文(36)でも自動詞文(37)でも、主語がマイナスの状態を受けているという意味を表すことである。

因みに、上述したように、ベトナム語の品詞判別は非常に難しい。更に、いつも以上の短い例文ばかりでなく、逆に長い文になっている場合が多い。そのため、“bị”の使用は本動詞であるか助動詞であるか、省略可能性があるかどうかを見る。“bị”の独立性が高く、省略不可の場合は本動詞、一方、“bị”がなくても文が成立し、述部の意味を支える機能を果たす場合は助動詞であると主張する。

- |  |                    |
|--|--------------------|
| (38) a. Nó bị đạn và chết.<br>あいつ 弾 そして 死ぬ       | (あいつは銃で撃たれて死んだ。)   |
| b. *Nó đạn và chết.<br>あいつ 弾 そして 死ぬ              |                    |
| (39) a. Tôi bị đi quá nhà cô ấy.<br>私 通り過ぎる 家 彼女 | (私はこの徐の家を過ぎてしまった。) |
| b. Tôi đi quá nhà cô ấy.<br>私 通り過ぎる 家 彼女         | (私は彼女の家を過ぎた。)      |

(38b) では、“bị”がないと非文となる。つまり、(38a) のように、“bị”の出現とともに、主語が良くない出来事に巻き込まれ、被害を受ける意味が成立し、本動詞の役割を果たす。一方、(39a) と (39b) の対比では、(39a) は主語の「私」が「彼女の家を過ぎた」という望ましくない動作状態を受け止めていることを表し、(39b) はただ「彼女の家を

通り過ぎた」という出来事を述べている。「bị」の出現によって、動詞の意味が補助されるため、この場合は助動詞と見なす。

## 5. “bị”の受動文マーカ－の用法

ベトナム語の直接受動文、間接受動文はLe Bich Diep (2019)で以下のように分析される。

(40) a. Mẹ mắng tôi.  
母 叱る 私 (母は私を叱った。)

b. Tôi bị (mẹ) mắng.  
私 PASS (母) 叱る (私は(母に)叱られた。)

(40b) はベトナム語の典型的な受動文であり、受動の被害の意味は“bị”でマークされる (Diệp Quang Ban 2005)。能動文の動作対象“Tôi” (私) が受動文の主語になり、能動文の動作主“mẹ” (母) は省略可能である。“Tôi” (私) を中心に表現される。構文は以下である。

【能動文】 : NP1+V<sub>t</sub>+NP2

【受動文】 : NP2+ bị+(NP1)+V<sub>t</sub>

ここでは、“bị”は受動の助動詞であり、4節の助動詞の用法と異なり、省略不可である。(40b) の“bị”受動文は先行研究で指摘された通り「NP2 (主語) + bị+節 (NP1+V<sub>t</sub>)」構文を取り、ベトナム語の典型的な受動文の一つである。この構文では受動主体が動作の対象である受動文である。言い換えると、日本語の直接受動文と近いタイプである。

更に、以下のような構文も観察できる。

(41) Tôi bị mẹ khóa cửa.  
私 PASS 母 鍵をかける ドア (私は母に鍵をかけられた。)

次の能動文 (41') から (41) のように、受動文が成立する。このような受動文の特徴は受動文の主語が能動文の目的語に対応せず、対応する能動文の形に戻せないことである。

(41') Mẹ khóa cửa.  
母 鍵をかける ドア (母は鍵をかけた。)

(41") \*Mẹ khóa cửa tôi.  
母 鍵をかける ドア 私

また、(42) は自動詞の間接受動文であり、意味上では他動詞の間接受動文と同様に、動作主の行為によって受動主体が好ましくない影響を受けることを表す。“Thu” (トゥー) という受動主体は直接的に作用を受けないが、“bạn tôi trễ” (友達が遅れる) という出来事に間接的に関与し、被害・迷惑を被る主体となっているのである。

(42) Chị Thu bị bạn tôi trễ. (≡ (9) )  
CL トゥー 友達 来る 遅れる (トゥーは友達に遅れられた。)

→構文 : NP1 (主語) + bị+節 (NP2+V<sub>i</sub>)

つまり、一般的にベトナム語の間接受動文の構文は以下のように示される。

【能動文】 : NP1+V<sub>i</sub> 又は NP1+V<sub>t</sub>+目的語

【受動文】 : NP2+bị+NP1+V<sub>i</sub> NP2+bị+NP1+V<sub>t</sub>+目的語

以下の例文も同様であり、ベトナム語の間接受動文として認められる。

- (43) Tôi bị người ngồi cạnh hút thuốc.  
私 PASS 隣の人 吸う タバコ (私は隣の人にタバコを吸われた。)
- (44) Anh ấy bị hàng xóm chơi piano suốt đêm.  
彼 PASS 近所の人 弾く ピアノ 一晩中  
(彼は近所の人に一晩中ピアノを弾かれた。)
- (45) Tôi bị vợ đàn dúi với hàng xóm.  
私 PASS 妻 浮気 と 近所の人 (私は妻に近所の人と浮気をされた。)
- (46) Tôi bị hàng hóa ế ẩm cả tháng nay.  
私 PASS 品物 売れない この一ヶ月 (この一ヶ月品物が売れない。)
- (47) Tôi bị trời mưa.  
私 PASS 雨 降る (私は雨に降られた。)
- (48) Tôi bị mẹ nằm viện hơn 1 tháng.  
私 PASS 母 入院する 一ヶ月以上 (私は母に一ヶ月以上入院された。)

では、「NP1<sub>(主語)</sub> + bị + 節」の形を取るが、節の成分に形容詞が現れることがある。

- (49) Chị Thu bị con ốm yếu. (= (8) )  
CL トゥー 子供 病弱 (トゥーの子供は病弱だ。)

→構文：NP1<sub>(主語)</sub> + bị + 節 (NP2+A)

構文上も意味上も成立し、ベトナム語の受動文として認められる。形容詞が現れる例文の観察は現在ではまだ僅かであるため、本稿では詳しく論じないが、ベトナム語の“bị”受動文の特徴に関しては、「NP1<sub>(主語)</sub> + bị + 節」という構文を取り、受動主体に立つものが他人の行為、又はある出来事から望ましくない影響を受けるということを主張する。

## 6. 助動詞の“bị”と受動文のマーカ―“bị”の違い

本動詞ではない“bị”の中には、助動詞と受動文マーカ―の役割を果たすものがある。それらの用法を区別するには、以下の例文を検討してみる。

- (50) Tôi bị ngã.  
私 AUX 転ぶ (私は転んだ。)
- (51) Tôi bị nhắc nhở.  
私 PASS 注意する (私は注意された。)
- (52) Tôi bị trời mưa. (=47)  
私 PASS 雨 降る (私は雨に降られた。)

なぜ (50) の“bị”は助動詞であり、(51) と (52) の“bị”は受動文マーカ―の役割を果たすのか。“bị”の後ろにある成分を考えよう。(50) の“bị ngã” (“bị”+転ぶ) は (51) の“bị nhắc nhở” (“bị”+注意する) と同じ形式「“bị”+V」を持つが、(50) では“ngã”の行為主体は主語の“tôi”と同一である。一方、(51) では、ヴォイス交替が見られ、動作主は省略されており、以下のように復元できる。

- (51') Tôi bị (thầy giáo) nhắc nhở.  
(私は (先生に) 注意された。)

更に、意味上では、(50) の“tôi” (私) は自分の行為によって被害を被っているのに対して、(51) (52) では、他人の行為又はある出来事によって主語が被害・迷惑を受けているという点が大きな違いと言える。

## 7. “bị”のその他の用法

被害・迷惑の意味が関わらない“bị”の用法も見られる。以下の例文のように、“bị”は“NP + hoi (少し) + bị + A”の構文で口頭語として用いられる。“hoi” (少し) と“bị” (被) の本来の意味が薄くなり、副詞句として“ngon” (上手い) という形容詞を修飾する役割を果たしている。形容詞の意味の方を強調し、話し手の主観的な判定も含まれる。(53) では、彼の料理が本当に上手いというニュアンスが伝わる。(54) も同様に、映画がつまらなく、期待より良くないことが含意されている。

(53) Anh ấy nấu ăn hơi bị ngon.  
 彼 料理を作る 少し 上手い (彼は料理が本当に上手い。)

(54) Bộ phim hơi bị chán.  
 CL 映画 少し つまらない (その映画は本当につまらないだ。)

また、以下の例文も観察できる。否定的な意味を表さず、主語が「愛している」という気持ち満ちており、その状態を強調するという比喩的な用法であると見なす。

(55) Tôi bị yêu em quá rồi.  
 私 愛する きみ すぎる PRF (きみのことが大好きだ。)

ただし、このような用法は特殊であると認め、ここでは詳しくは論じない。

## 8. まとめ

本稿ではベトナム語“bị”の各用法を考察した。以下の表2でまとめる。

【表2】

“bị”の機能	構造	特徴
動詞	NP1 (主語) + bị + NP2 (対象)	①有情物のNP1：NP2がNP1に被害・迷惑を及ぼす ②非情物のNP1：NP1が受動的にNP2 (良くない状態) を受ける
助動詞	NP (主語・有情) + bị + A / V <sub>i</sub> / V <sub>t</sub> NP (主語・非情) + bị + A / V <sub>i</sub>	①有情物のNP：A・V <sub>i</sub> / V <sub>t</sub> がNP1に被害・迷惑を及ぼす ②非情物のNP：NP1が受動的にA・V <sub>i</sub> の良くない状態を受ける
受動文の マーカー	NP1 (主語) + bị + 節 ( (NP2) + V <sub>t</sub> )	直接受動文
	NP1 (主語) + bị + 節 (NP2 + V <sub>i</sub> / V <sub>t</sub> ) NP1 (主語) + bị + 節 (NP2 + A)	間接受動文
口頭語	NP + hoi (少し) + bị + A	形容詞の意味を強調する

まず、動詞と助動詞の用法では主語が有情物の場合は、NP2がNP1に影響し、被害・迷惑を及ぼす。主語が非情物の場合は、好ましくない物・状態を被っていることを表す。ここでは、“bị”の特徴としてはプラスの意味を表す語彙と共起せず、マイナスの意味の語彙としか使えないため、被害・不利などを認識することができない非情物の主語であっても、被害に関わる意味が残っていることが明らかになった。

次に、受動文マーカの用法では、日本語の直接受動文と間接受動文に相当するものがあることを示した。特に、「NP1<sub>(主語)</sub> + bi + 節<sub>(NP2+A)</sub>」という受動文の構文を取り、意味上も成立するため、形容詞であっても“bi”受動文が存在すると言える。

最後に、口頭語として扱われる“bi”の用法も観察でき、本来の「被害」の意味が失われることが分かった。

### 【参考文献】

- 天野みどり(2001)「無生物主語のニ受動文—意味的關係の想定が必要な文—」『国語学』52-2, pp.1-15
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房
- 影山太郎編(2009)『日英対照 形容詞・副詞の意味と構文』大修館書店
- 川村大(2003)「受身文の学説史から—「被影響」の有無をめぐる議論について」『月刊言語』32-4, 大修館書店, pp.42-49
- 工藤真由美(1990)「現代日本語の受動文」『ことばの科学』4, むぎ書房, pp.47-102
- 久野暉(1983)『新日本文法研究』大修館書店
- 柴谷方良(1997)「迷惑受身の意味論」『日本語文法—体系と方法—』ひつじ書房, pp.1-22
- 柴谷方良(2000)「言語の機能と構造と分類」『言語研究』112, pp.1-31
- 杉本武(2007)『現代日本語の受動文と格の研究』, 博士学位論文, 筑波大学
- 鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』むぎ書房
- 高見健一(2011)『受身と使役—その意味規則を探る—』開拓社出版
- 高見健一・久野暉(2002)『日英語の自動詞構文』研究社出版
- 富田健次(1988)「ヴェトナム語」亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典』1, 三省堂
- 谷守正寛(1999)「日本語・タイ語・ベトナム語の受身対照比較：間接受身文を中心に」『鳥取大学教育地域科学部紀要. 教育・人文科学』1-1, 鳥取大学教育地域科学部, pp.293-302
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 第I巻』くろしお出版
- 仁田義雄(編)(1991)『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版
- 益岡隆志(1990)『モダリティの文法』くろしお出版
- 益岡隆志(1991)「受動表現と主題性」, 仁田義雄(編)『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版, pp.105-121
- 益岡隆志(2000)『日本語文法の諸相』くろしお出版
- 松下大三郎(1930=1978)『改撰標準日本文法』勉誠社
- 村上三寿(1997)「受身構造の文の意味的なタイプ」『ことばの科学』8, むぎ書房, pp.103-149
- 村上雄太郎(1997)「受け身と利害の表現—日本語とベトナム語との対照を試みて」
- Thompson, Laurence C. (1965) “A Vietnamese Grammar”, Seattle, University of Washington Press

- Edward L. Keenan and Matthew S. Dryer (2007) “Passive in the world’s languages”. In T.Shopen (ed.), *Language Typology and Syntactic Description*, Cambridge: Cambridge University Press, pp.325-361
- Diệp Quang Ban (2005) “Ngữ pháp tiếng Việt (tập I, II)”, Nhà xuất bản Giáo dục(ジエップ・クワン・バン(2005)『ベトナム語の文法I, II』教育出版)
- Diệp Quang Ban, Nguyễn Thị Thuận (2000) “Lại bàn về vấn đề câu bị động trong tiếng Việt”, *Tạp chí ngôn ngữ số 7*, tr.14-21(ジエップ・クワン・バン, グエン・ティエー・トゥアン (2000)「ベトナム語の受動文再考」『言語雑誌』7, pp.14-21)
- Lê Đình Tư & Vũ Ngọc Cân (2009) “Nhập môn ngôn ngữ học”, Hà Nội(レー・ディン・トゥー & ヴー・ゴック・カン(2009)『言語学入門』ハノイ出版)
- Lê Đình Khẩn (2002), “Từ vựng gốc Hán trong tiếng Việt”, Nhà xuất bản Đại học Quốc gia thành phố Hồ Chí Minh(レー・ディン・カン(2002)『ベトナム語における漢越語』ホー・チ・ミン市国家大学出版)
- Nguyễn Hoàng Tuấn(2006)“Câu bị động và nghĩa bị động trong tiếng Việt”, Luận văn thạc sĩ ngôn ngữ học, Đại học sư phạm thành phố Hồ Chí Minh(グエン・ホアン・トゥアン (2006)『ベトナム語における受動文と受動意味』修士論文, ホ・チエー・ミン師範大学)
- Nguyễn Hồng Cẩn, Bùi Thị Diên (2004) “Dạng bị động và vấn đề câu bị động trong tiếng Việt 1”, *Tạp chí ngôn ngữ số 7*, tr.1-12(グエン・ホン・コン, ブイ・ティエー・ジエン (2004)「ベトナム語における受動態と受動文1」『言語雑誌』7, pp. 1-12)
- Nguyễn Hồng Cẩn, Bùi Thị Diên (2004) “Dạng bị động và vấn đề câu bị động trong tiếng Việt 2”, *Tạp chí ngôn ngữ số 8*, tr.8-18(グエン・ホン・コン, ブイ・ティエー・ジエン(2004)「ベトナム語における受動態と受動文2」『言語雑誌』8, pp. 8-18)

#### 【辞典】

- Hoàng Phê (chủ biên) (2003) “Từ điển tiếng Việt”, Viện ngôn ngữ học, Nhà xuất bản Đà Nẵng (ホアン・フェー(編)(2003)『ベトナム語辞典』言語研究所, ダー・ナン出版)

#### 【略号一覧】

A : 形容詞	CL : 類別詞	PROG : 進行相
AP : 形容詞句	COP : 繫辞	PRT : 文末助詞
AUX : 助動詞	NP : 名詞句	V <sub>i</sub> : 自動詞
CAUS : 使役	PASS : 受身	V <sub>t</sub> : 他動詞
	PAST : 過去	VP : 動詞句
	PRF : 完了相マーカー	